

【基本方針】

住み慣れた町で、その人らしく、慈愛に満ちた生活を支援する

【年間目標】

- ① 良質なサービスの提供
- ② 地域との連携
- ③ 働きやすく、やりがいのある職場環境を整える
- ④ 目標稼働率 97%を目指す

【実践報告】

① 良質なサービスの提供

- ・食事に関しては、入居者様の状態に合わせた形態での提供（ブレンダーやとろみ剤の使用により）をすることが出来た
- 水分摂取に関しては、嗜好に合わせた物の提供をすることが出来た。歩行などの活動量に関しては、雨季や冬季など、季節によって差があったが、外出行事などを毎月計画実行し、屋外での活動を支援することが出来た。
- ・感染症に関しては、12月にインフルエンザの感染者が、入居者に2名、職員に2名1階のユニットにおいて発生した。
- ・チームケアの実施に関しては、週に1回のユニットミーティングや月に1回の会議を開催し、支援内容を話し合う機会を持った
- ・職員のスキルアップに関しては、認知症介護実践者研修に1名の職員を参加。毎月の会議の中で勉強会を開催し、基本的な介助方法や感染症、認知症ケア、権利擁護などの内容を行った。
- ・定期的なサービスの評価に関しては、8月に第3者評価を受け、ご家族へのアンケートも実施した。

② 専門的な認知症ケアの提供

- ・3ヶ月毎の介護計画の見直し、6ヶ月毎のセンター方式を用いたアセスメントを実施することで、ご入居者主体の計画の見直しが行えた。

③ ご家族との連携

- ・昨年同様、季節行事へご家族の参加を促し、多くのご家族に参加して頂いた。また、家族会を年1回（9月）開催し、意見交換を行った。その中で、職員の言葉遣いや態度に関するご指摘を受ける事があり、その職員への指導を行った。

④ 地域との連携

- ・運営推進会議は、2ヶ月に1回開催した。ご入居者の地域交流に関しては、福祉センターで開催する夏祭り、文化祭、避難訓練への参加や、塩屋キッズ音楽隊の訪問等を行った。また、地域で活動するボランティアの導入をし、毎月2

組のボランティアに活動をしていただいた。

- ・管理者による地域ケア会議やグループホーム連絡会、垂水区在宅医療介護サポートセンター開催の会議などの参加は定期的に出来た。

⑤ 目標稼働率 97%を目指す

- ・令和1年度の稼働の結果は、96.2%であった。入院者は5名おられた。入院延べ日数は181日であった。冬季にかけての入院者の増加、その後の退居に伴う次期入居者への働きかけがスムーズに行えなかったことが原因と思われる。

令和1年度月別稼働状況													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
平均利用人数	17.4	17.9	17.4	18	18	18	17.6	15.8	16.2	16.1	17.9	17.1	17.3
平均稼働率	96.7	99.3	96.7	100	100	100	97.7	87.6	89.8	89.4	99.4	95.2	96.2

【苦情受付】1件

(職員の言葉使いについて)

令和元年9月7日開催のグループホーム家族会において、職員の言葉使いについて苦情を受け付ける。入居者への声かけがきつく、命令口調であるように感じる

改善内容

令和元年9月8日14:00、対象職員に対し、言葉遣いに関して丁寧語を使用すること、話をする時の態度や声のトーンで相手が威圧感や不快感を与えてしまうことがあることを意識するように指導をする。他の職員に関しても、適宜注意するよう徹底指示を行った